

普及活動情勢報告（平成 30 年 12 月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

病害版IPMの実現に向けて ～JA土佐あき北支所管内で発病度調査～



「早朝加温と換気で病害が抑えられていますね」

農業改良普及課は、今年度から「湿度制御による病害低減技術の確立と普及」を課題化し、安芸集出荷場管内の高台寺・一ノ宮地区をモデル地区とし、促成ナス30戸を対象に湿度制御による病害防除の技術確立と普及に取り組んでいます。

11月13日から16日にかけて JA職員と協力して厳寒期前の病害発病度を調査しました。

重油高騰の影響から加温を控える生産者が多く、夜間の多湿による黒枯病の発生ほ場が目立つ中、「病気を出したくないき、早めに暖房して湿度を抑えている」という湿度制御に取り組んでいる生産者もいました。

農業改良普及課は、モデル地区内の湿度制御実施者の温湿度管理を見える化し、管内ナス農家に周知することで湿度制御による病害防除技術を普及します。

難防除害虫対策にむけて ～中芸地区野菜園芸研究会勉強会～



害虫の生態に注目する生産者

11月29日、中芸地区野菜園芸研究会は勉強会を開催し、生産者21人が出席しました。

講師に農業技術センター昆虫担当研究員を招いて、近年、地区で問題になりつつあるチャノキイロアザミウマをはじめとするアザミウマ類およびカイガラムシ類等の生態や対策について講演会を行いました。

生産者からは、「チャノキイロアザミウマの被害があるが、シシトウは効果のある農薬が少なく、対策が難しい。」など防除対策や薬剤について多くの質問がありました。

農業改良普及課は、引き続き関係機関と連携して部会活動を通じて難防除害虫対策を進め、中芸地区の産地振興を図ります。

なすまんに続く新商品「なす餃子」ができた!! ～ JA土佐あき女性部なすっこ組～



「いいデザインができたね。これでいこう!!」

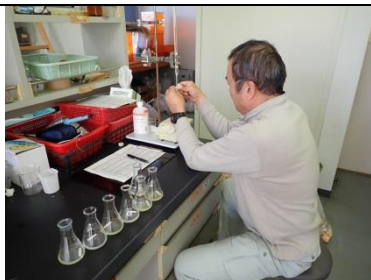
JA土佐あき女性部なすっこ組は、夏場に販売する商品づくりを目的に6次産業化セミナー実践コースを受講しています。これまでの研修を通じて「なす餃子」と「餃子のタレ」を開発してきました。

12月4日にいの町で開催された6次産業化セミナー実践コース（フォローアップ）になすっこ組3人が出席し、包装資材やパッケージデザイン、単価設定等を行い、販売方法を決定しました。

農業改良普及課は、特に原価計算や食品の一括表示について指導しました。

今後もJA土佐あき女性部なすっこ組に対して、1月の成果発表会や販売に向けて支援していきます。

よさこいポンカンの収穫が始まりました!! ～JA土佐あきポンカン部会～



気温の高い日が続くと
酸抜けが早まるかも・・・

JA土佐あきポンカン部会のポンカン園では、11月下旬から収穫が始まり、農業改良普及課室戸支所は、12月5日にJAと協力し、10カ所のほ場から果実をサンプリングして果汁分析を行いました。

分析の結果、昨年に比べて糖度はやや高く、酸度はやや低い傾向でした。また、本年産収量は、平年よりやや多い見込みです。

農業改良課室戸支所では、1月上旬にも果汁分析を行い、本年産ポンカンの品質を把握し、生産者に情報提供します。

ナスの品質収量の向上を目指して ～芸西地区一斉ナス農家巡回～



厳寒期の管理について説明

12月5日と7日、農業改良普及課はJA土佐あき営農指導課と連携し、3班体制で、芸西地区のナス農家65戸を一斉に個別巡回しました。内容は厳寒期の栽培管理や病虫害防除対策等に加えて、環境制御技術について指導・周知しました。

生産者からは、「この病害に対してはどの農薬を散布したらいいか?」、「かん水量は適正と思うか?」などたくさん質問があり、非常に有意義な巡回となりました。

農業改良普及課は、部会や研究会活動での指導に加え、個別巡回指導も行いながら、芸西地区全体の更なる栽培管理技術の向上に努めます。

集荷後のユズはいずこへ? ～JA土佐あき柚子部後継者交流会～



精油工場施設を
熱心に見学する生産者

農業改良普及課はJA土佐あきと協力して若手生産者向け視察研修を企画し、12月7日にJA土佐あき柚子部の若手生産者20人がユズ皮を利用している精油工場と安芸ゆず集出荷場を視察しました。

参加した若手生産者は自分たちが丹精込めて栽培したユズがどのように加工されているかを見学し、「収穫時期によってオイルの香りも違うね」、「ユズオイルの需要は増えようが?」などの質問や感想が出され、自分たちのユズが多くの人に必要とされていることを改めて知ることができました。

農業改良普及課は、関係機関と連携しながら、若手生産者の生産意欲向上、組織活動の活発化に向けて支援します。